

特集 「生活を支える」を具現化する

在宅だから

国際生活機能分類

ICF!

訪問看護と介護の仕事は、利用者さんの「生活」を支えていくこと。

そうとはわかっていても、「生活」はあまりに幅広く複雑で、捉えどころのないものです。

さらに、多職種連携が基本となる「在宅」では、

その課題や目標を言語化して互いに共有する必要があります。

そのために、専門職のために細分化された「義的な評価基準を用いることも多いこと」でしょう。

ただ、これらの基準は、みる側「本位になりかねない危険をつねにはらんでいます。

医療・看護・リハビリ・介護を行なうためにと、

その人の一部分だけを切り取ってしまっておそれがあるのです。

本人が今、生活のなかで本当に困っていること、本当に求めていることは何なのか？

ICF（国際生活機能分類）は、その人の「生きていくことの全体像」を捉え、

「いま必要な支援」の具現化に迫りうる国際基準です。

万国共通のモデルですから、もちろん多職種の「共通言語」にも。

「在宅」でのICF活用の可能性を探ります。

ICF

International Classification
of Functioning,
Disability and Health

国際生活機能分類

の＜日本語版＞は、
厚生労働省のホームページで
全文を読むことができます！

<http://www.mhlw.go.jp/houdou/2002/08/h0805-1.html>